

平成19年12月12日

平成19年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

平成19年度に実施した「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、保護者や地域の皆様に御理解と御協力をいただきながら、学習指導の工夫・改善に生かしていくため、以下の通り公表します。

なお、本市の「学習内容定着度調査」及び「学習と生活についてのアンケート（意識調査）」に本調査を加えた、結果の分析及び指導の工夫・改善のための具体策を平成20年4月を目途に公表します。Ⅰ 調査の概要 1 目的 ア

全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。 イ

各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげる。 2 調査期日 平成19年4月24日（火） 3 調査対象 第3学年 4 調査内容（1）教科に関する調査 ①

国語A、数学A（主として「知識」に関する問題） ②

国語B、数学B（主として「活用」に関する問題）（2）

生活習慣や学習環境に関する質問紙調査 ① 生徒に対する調査 ② 学校に対する調査

5 本校の参加状況 生徒数 ① 国語A 241人、国語B 240人 ② 数学A 242人、数学B 243人 6 留意事項

（1）本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

（2）本校の傾向等を分かりやすく示し、指導の工夫・改善に生かすために分類・区別の平均正答率を公表した。

（3）平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区別の傾向と課題」、「指導の工夫・改善の方向性」などの分析を併せて記載した。 ※用語の説明 ○平均正答率…平均正答数を百分率で表示。

・学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均

正答率は、それぞれの正答生徒数を全体の生徒数で割った値の

百分率。

・平均正答数は、生徒の正答数の平均。

Ⅱ 調査結果の概要

【国語】

《全体的な傾向》

角丸四角形：国語A(知識)の平均正答率は全国平均より高く、正答数の分布状況は頂点が36問であり、35～37問正答の生徒の割合は全国より高い。

・国語B(活用)の平均正答率は全国平均より高く、正答数の分布状況は全国とほぼ同様である。

《分類・区分別集計結果》

(1) 国語A(設問数37問)

分 類	区 分	対象設問 数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の 領域	話すこと・聞くこと	8	91.0	91.3	90.1
	書くこと	4	75.1	77.4	73.4
	読むこと	7	82.9	81.9	80.6
	言語事項	18	82.1	82.3	80.3
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	84.6	84.2	83.5
	話す・聞く能力	8	91.0	91.3	90.1
	書く能力	4	75.1	77.4	73.4
	読む能力	7	82.9	81.9	80.6
	言語についての知識・理解・技能	18	82.1	82.3	80.3
問題形式	選択式	20	84.8	85.3	84.2
	短答式	16	82.6	82.2	79.3
	記述式	1	68.9	73.0	72.4

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 国語B(設問数10問)

分 類	区 分	対象設問 数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の 領域	話すこと・聞くこと	1	82.9	82.8	81.3
	書くこと	3	61.4	65.8	64.4
	読むこと	9	71.4	72.8	70.6
	言語事項	1	71.7	70.8	68.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	61.4	65.8	64.4
	話す・聞く能力	1	82.9	82.8	81.3
	書く能力	3	61.4	65.8	64.4
	読む能力	9	71.4	72.8	70.6
	言語についての知識・理解・技能	1	71.7	70.8	68.5
問題形式	選択式	5	81.1	80.9	79.3
	短答式	2	67.9	68.2	63.5
	記述式	3	61.4	65.8	64.4

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

《分類・区分別の傾向と課題》

●…課題があるもの

角丸四角形：【話すこと・聞くこと】

○A 領域の平均正答率は91.3%で、他の領域と比較してとても高い。全国平均との比較では0.9%ポイント高い。

○B 領域の平均正答率は82.8%で、全国平均より1.6ポイント高い。

【書くこと】 ○A 領域の平均正答率は75.1%で、全国平均より1.7ポイント高い。

●B 領域の平均正答率は61.4%で、全国平均より3.0ポイント低い。自分の考えを明確にして書くことに課題がある。

【読むこと】

○A 領域の平均正答率は82.9%で、全国平均より2.3ポイント高い。特に、古典に親しむ問いに対する正答率が97.1%と、全国平均より9.1ポイントも高い。

○B 領域の平均正答率は71.4%で、全国平均より0.8ポイント高い。カードから情報を読み取る二問では、正答率の平均が全国平均より4.4ポイント高い。【言語事項】

○A 領域の平均正答率は82.1%で、全国平均より1.8ポイント高い。漢字の読み書きの正答率は全ての問題で全国平均を上回っている。

●A 書写の行書の設問の正答率は74.3%で全国平均より4.0ポイント低く、行書の書き方の理解に課題がある。○B 領域の平均正答率は71.7%で、全国平均より3.2ポイント高い。

【その他】

● ABとも問題形式のうち、記述式の平均正答率が全国平均より3ポイント以上低い。無回答率も平均で16.7%もあり、自分の考えを書くことに抵抗のある生徒が多いことが課題である。

《国語に関する質問紙調査の状況》

角丸四角形：【生徒質問紙】

○「国語の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答の割合は75.2%であり、全国平均より19.8ポイント高い。

○「『蜘蛛の糸』を今までに読んだり聞いたりしたことがありますか」に対する肯定的な回答の割合は78.5%であり、全国平均より10.3ポイント高い。

○「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答の割合は62.6%であり、全国平均より5.9ポイント高い。

○「新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしていますか」に対する肯定的な回答の割合は62.4%であり、全国平均より4.3ポイント高い。

○「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答の割合は、全国平均より2.7ポイント低いが、割合は87.2%と高い。

●「解答を文章で書く問題は、最後まで解答を書こうと努力しましたか」に対する肯定的な回答の割合は67.4%であり、全国平均より6.9ポイント低い。

《国語における指導の工夫・改善の方向性》

角丸四角形：【話すこと・聞くこと】

・ 課題について話し合う機会を多く設けるとともに、互いの共通点や相違点を聞き分けながら、自分の考えを深める機会を数多く設定する。

【書くこと】

・ 書くことへの抵抗をなくすため、自分の考えや伝えたい事柄を明確に持たせる工夫をする。また、書く活動を多く設定し、書く習慣をつけさせる。【読むこと】

・ 主題や要旨をとらえ、そこから自分の意見を持たせたり、表現の仕方や文章の特徴に注意して読ませ、自分の表現に役立たせる活動の場を多く設定する。【言語事項】

・ 漢字、語句、書写などで学習した内容の理解を深めさせるとともに、他教科の学習や、日常の生活で使えるような意識を持たせる工夫をする。【その他】

・ 基礎的な力をつけさせるための宿題を与えたり、発展的な読書指導を行う。

【数 学】

《全体的な傾向》

角丸四角形:

- ・ 数学A(知識)の平均正答率は全国、県平均よりやや低い。正答数の頂点が全国、県と同じ35問であるが、24～27問の分布の割合が高いことから、中央値が27.0とずれ、平均も下げたと思われる。
- ・ 数学B(活用)の平均正答率は全国、県平均より2.5%低く、正答数の分布状況は14問と8～9問の2極化が見られる。

《分類・区分別集計結果》

(1) 数学A(設問数36問)

分 類	区 分	対象設問 数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の 領域	数と式	12	72.0	73.9	74.4
	図形	12	73.1	77.2	75.5
	数量関係	12	61.9	66.4	65.9
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な表現・処理	14	66.5	69.6	70.6
	数量・図形などについての知識・理解	22	70.6	74.3	72.8
問題形式	選択式	18	69.0	72.3	70.9
	短答式	18	69.1	72.7	73.0
	記述式	0			

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 数学B(設問数17問)

分 類	区 分	対象設問 数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の 領域	数と式	5	45.8	47.9	48.2
	図形	2	51.6	50.6	53.1
	数量関係	10	63.4	67.7	67.9
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	13	53.1	55.7	56.5
	数学的な表現・処理	3	63.5	67.5	66.5
	数量・図形などについての知識・理解	1	86.0	92.0	93.0
問題形式	選択式	3	64.2	65.2	63.9
	短答式	7	68.8	73.4	74.2
	記述式	7	41.8	44.2	45.1

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

《分類・区分別の傾向と課題》

●…課題があるもの

角丸四角形:【数と式】○A 連立方程式2問の平均正答率は約74%で、全国、県平均より約3%高い。

●B 領域の平均正答率は45.8%で、全国平均から2.4%、県平均からは2.1%低い。特に、条件にあった計算式を新たに作る設問では5%弱低く、問題解決の見通しから数学的な表現を用いて説明することに課題がある。【図形】

●A ねじれの位置や同じ弧に対する円周角と中心角の関係の理解をみる問題の正答率は、全国、県平均より5~9%と低く、無解答率も高い。図形の位置関係や基本的な性質の理解とその定着が課題である。

○B 証明の中の誤りを正す問題の正答率は49.0%で、全国、県を約1%上回っている。【数量関係】

●A 領域の平均正答率は61.9%で、全国平均から4%、県平均より4.4%低い。特に比例のグラフから式を求める問題や反比例の表を完成する問題では約10%低く、比例反比例の基礎的基本的な知識理解や表現処理の定着に課題がある。

○A 確率の意味についての理解は52.1%と、全国、県平均を約1~2.5%上回っている。【その他】

●B 全問中3問において無解答率が40%を超えている。

《数学に関する質問紙調査の状況》

角丸四角形:【生徒質問紙】○

「数学の授業の内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答の割合は71.1%であり、全国平均より7.5%、県平均より7.2%高い。○

「数学の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答の割合は52.0%であり、全国平均より1.0%、県平均より1.8%高い。○

「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対する肯定的な回答の割合は31.0%であり、県平均より1.8%低いが、全国平均よりは0.3%高い。●

「数学ができるようになりたいと思いますか」に対する肯定的な回答の割合は85.1%であり、全国平均より4.8%、県平均より6.6%低い。●

「数学の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答の割合は74.4%であり、全国平均より4.4%、県平均より6.7%低い。●

「数学の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」に対する肯定的な回答の割合は58.3%であり、全国平均より4.7%、県平均より6.0%低い。

《数学における指導の工夫・改善の方向性》

角丸四角形:【数と式】

・正の数と負の数の計算や文字式の計算など、基本的な計算のしかたについて十分理解を深めた上で、反復練習を行い、より確実な定着を図る。

・条件にあった式を作るなど、問題解決の見通しから数学的な表現力を高めるために、文字式の知識や技能を活用して身近な事象や数量の関係などをとらえる機会を充実する。【図形】

・図形の位置関係や基本的な性質の理解を深めるために、観察や実験、具体物操作やコンピュータによるシミュレーションなどを積極的に導入し、実感が伴う、視覚的に理解する活動を一層充実する。【数量関係】

・比例や反比例、一次関数を常に比較しながら扱うなど、それらの意味と性質を理解するための指導の充実を図る。

・日常的な場面の事象をグラフにしたり、グラフから情報を読みとったりする活動を多く取り入れ、関数的な見方考え方に慣れ、数学的に処理する力を高める。【その他】

・より効果的な習熟度別学習の工夫改善とともに、授業での学習のしかたの徹底、宿題や課題など家庭学習の充実を図ることで、基礎・基本の確実な定着をねらう。

・「分かる授業の展開」を一層推進し、生徒の興味や関心意欲を高めるために、数学的な活動や問題解決的な学習を積極的に取り入れる。

【質問紙調査】

生徒質問紙

《主な状況》

- 角丸四角形: ○「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は63.3%で、全国と比べて1.3ポイント高い。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は72.3%で、全国と比べて1.6ポイント高い。
- 「家で自分の興味のあることについて調べたり、勉強したりしていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は46.7%で、全国と比べて2.2ポイント高い。
- 「世の中のいろいろな出来事に関心がありますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は66.1%で、全国と比べて3.4ポイント高い。
- 「テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は24.4%で全国と比べて2.1ポイント高い
- 「家で学校の授業の予習をしますか」、「家で学校の授業の復習をしていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は23.6%、37.2%で、全国と比べてそれぞれ5.9ポイント、1.0ポイント低い。
- 「総合的な学習の時間」に関する4つの質問すべてにおいて、肯定的な回答の割合は、全国と比べて低く、特に『総合的な学習の時間』の勉強は好きですか」は、40.5%で全国と比べて、19.4ポイント低い。
- 「朝食を毎日食べていますか」に対する肯定的な回答の割合は88.0%で、全国と比べて3.6ポイント低い。
- 「学校の授業時間以外に、普通(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」において、「2時間以上」の回答の割合は28.1%で、全国と比べて7.3ポイント低い。
- 「学校のきまりを守っていますか」に対する肯定的な回答の割合は74.8%で、全国と比べて10.9ポイント低い。
- 「学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめていますか」に対する肯定的な回答の割合は77.3%で、全国と比べて5.8ポイント低い。
- 「家で学校の宿題をしていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は64.9%で、全国と比べて15.3ポイント低い。
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対する肯定的な回答の割合は21.9%で、全国と比べて15.6ポイント低い。

テキスト ボックス:Ⅲ 今後の予定

市が作成した『学習指導の工夫・改善のために』(指導資料)を参考に「学習内容定着度 調査」及び「学習と生活についてのアンケート(意識調査)」の結果と「全国学力・学習状況 調査」の結果を併せて、「本校における学習指導の工夫・改善」を作成する。

・ 公表時期 平成20年4月(予定) ・ 公表方法 ホームページ等